

# 2024年3月期 第2四半期決算説明資料



2023年11月29日  
ニチレキ株式会社  
(東証プライム 証券コード5011)

「道」創りを通して社会に貢献する  
「道」創りのリーディングカンパニー

# 「種を播け」



## 「種を播け」

よい種を播いて歩こう  
これが我が社のモットーです  
たとえ、どんな旱魃がきても  
枯れないような強い種をまき  
汗を流して肥料をやろう  
必ず立派な実がみのる  
たとえ、自分がとらなくても  
私はこう思っています  
種まきをしないで  
肥料をやらなくて  
誰も果実ばかりねらっているのは  
本当の繁栄はこない  
私はそう思います

池田 英一（当社創業者）

## ニチレキグループ企業理念

### 基本理念(種播き精神)

『種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる』

たゆみない努力の積み重ねによって絶えず新しい仕事を創造していきます。

### 経営理念

ニチレキグループは、「道」創りを通して社会に貢献するため、

- ①優れた機能とコストを満足する道路舗装材料ならびに工法の提供
- ②国民の共有資産である「道」をいつも見守る高度なコンサルティング
- ③顧客から信頼される施工技術

これらを完全に一体化し、株主をはじめ幅広い顧客の皆様から信頼される「道」創りになくてはならない収益性に優れた企業グループであり続けるとともに、社員一人ひとりが能力を発揮でき、働きがいのあるグループであることを経営理念とします。

# 目次

- I . 会社概要
- II . 2024年3月期 第2四半期決算概要
- III . 2024年3月期 通期業績予想

# I . 会社概要

# 会社概要



名称	ニチレキ株式会社 NICHIREKI CO.,LTD.
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
創業	1943年10月（設立 1949年9月）
資本金	29億1,968万円
代表者	代表取締役社長 小幡 学
従業員数	972名（連結、2023年3月31日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ アスファルト応用加工製品の製造・販売</li><li>・ 建築・土木用資材の製造加工・販売</li><li>・ 道路舗装工事・防水工事・上下水道工事、及びその他の土木工事の請負、これに関する調査・設計・監理 他</li></ul>

# グループ沿革



1943年	池田英一がアスファルトを用いた建築防水工事を行う日本瀝青化学工業所を興す
1949年	会社設立
1950年	東京都荒川区に東京工場・研究室を建設、アスファルト乳剤の製造を開始
1954年	分割合併等により日瀝化学工業株式会社に社名変更
1968年	東京都千代田区九段に本社ビル新築(現在に至る)
1974年	東証と大証の両市場第一部銘柄として上場
1977年	栃木県の小山工場内に技術研究所を開設
1994年	ニチレキ株式会社に社名変更
2002年	中国・北京市に特殊舗装材料の製造・販売を行う日中合弁会社 北京路新大成景観舗装有限公司を設立
2007年	初のM&Aを実施、大分県大分市の朝日工業テクノス(株)(2022年4月商号変更)を完全子会社化
2010年	中国・上海市に子会社 日瀝(上海)商貿有限公司を設立
2014年	連結子会社を完全子会社化
2017年～2019年	M&Aを実施、ラインファルト工業(株)、伸和化工(株)、ヒートロック工業(株)を完全子会社化
2020年	つくばみらい市に環境配慮型の生産・物流基地(つくばビッグシップ)を建設するための大規模な土地を取得
2022年	東京証券取引所の市場再編に伴い「プライム市場」を選択・移行
2023年	10月26日 創業80周年を迎える



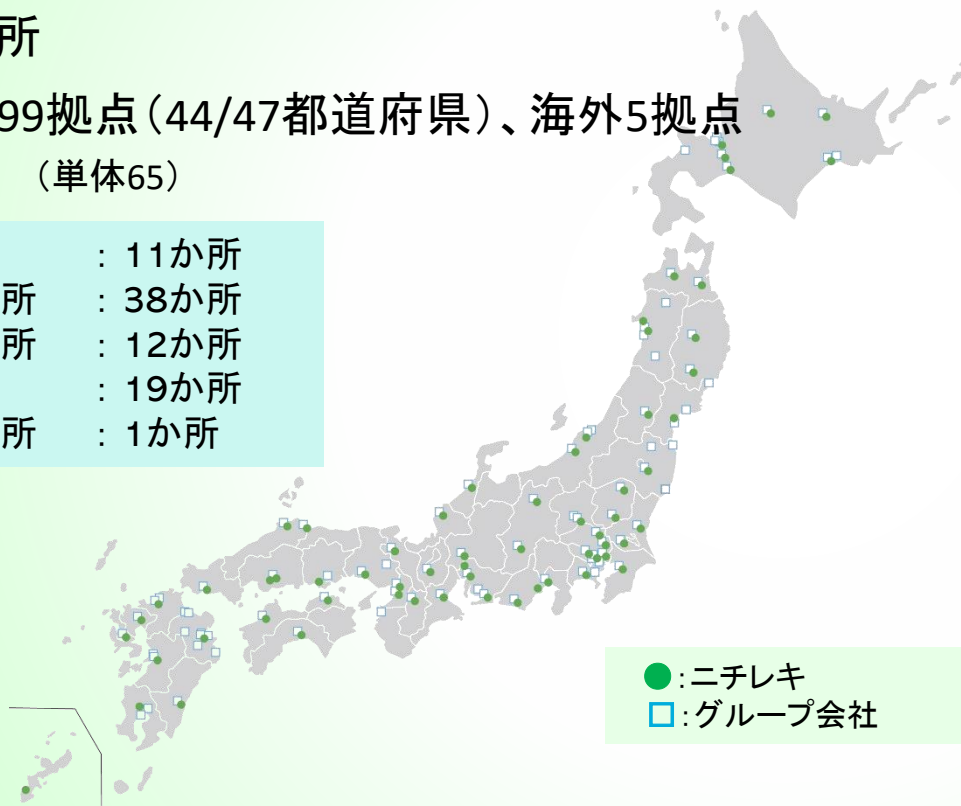
# 事業所・グループ会社 (2023年9月30日現在)



## ◆事業所

国内99拠点 (44/47都道府県)、海外5拠点  
(単体65)

支店	: 11か所
営業所	: 38か所
出張所	: 12か所
工場	: 19か所
研究所	: 1か所



## ◆グループ会社(連結子会社)

北海道ニチレキ工事株式会社  
東北ニチレキ工事株式会社  
日瀝道路株式会社  
日レキ特殊工事株式会社  
中部ニチレキ工事株式会社  
近畿ニチレキ工事株式会社  
中国ニチレキ工事株式会社  
四国ニチレキ工事株式会社  
朝日工業テクノス株式会社  
九州ニチレキ工事株式会社  
ラインファルト工業株式会社  
ヒートロック工業株式会社

など34社



# 事業概要

主として道路舗装に関する製品、技術、工事等を幅広く提供する事業を展開

## ●アスファルト応用加工製品事業

アスファルト乳剤、改質アスファルト、橋梁床版防水材料、路面補修材、クラック補修材、景観舗装材料、工業用製品などのアスファルト応用加工製品の製造・販売、および建築・土木用資材の製造加工・販売

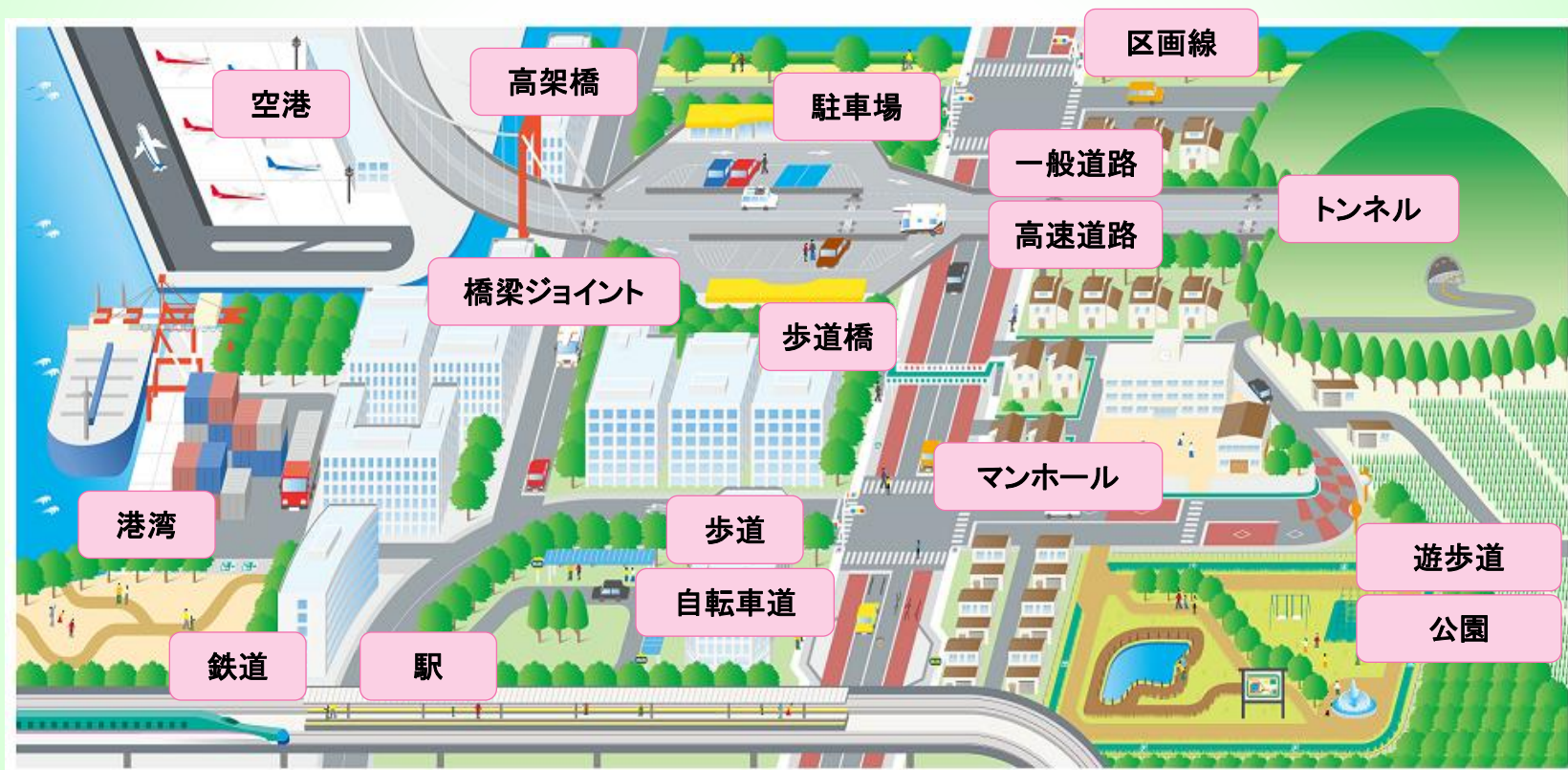


## ●道路舗装事業

道路舗装工事、橋梁床版防水工事、上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負、およびこれらに関する調査・診断、設計、監理

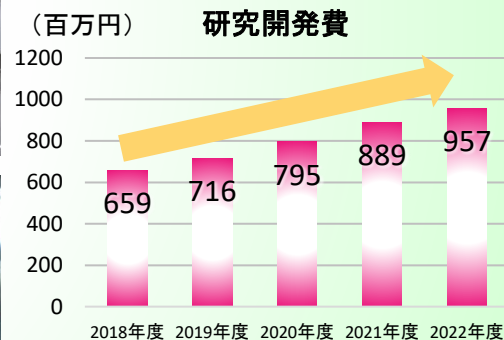


# 事業領域



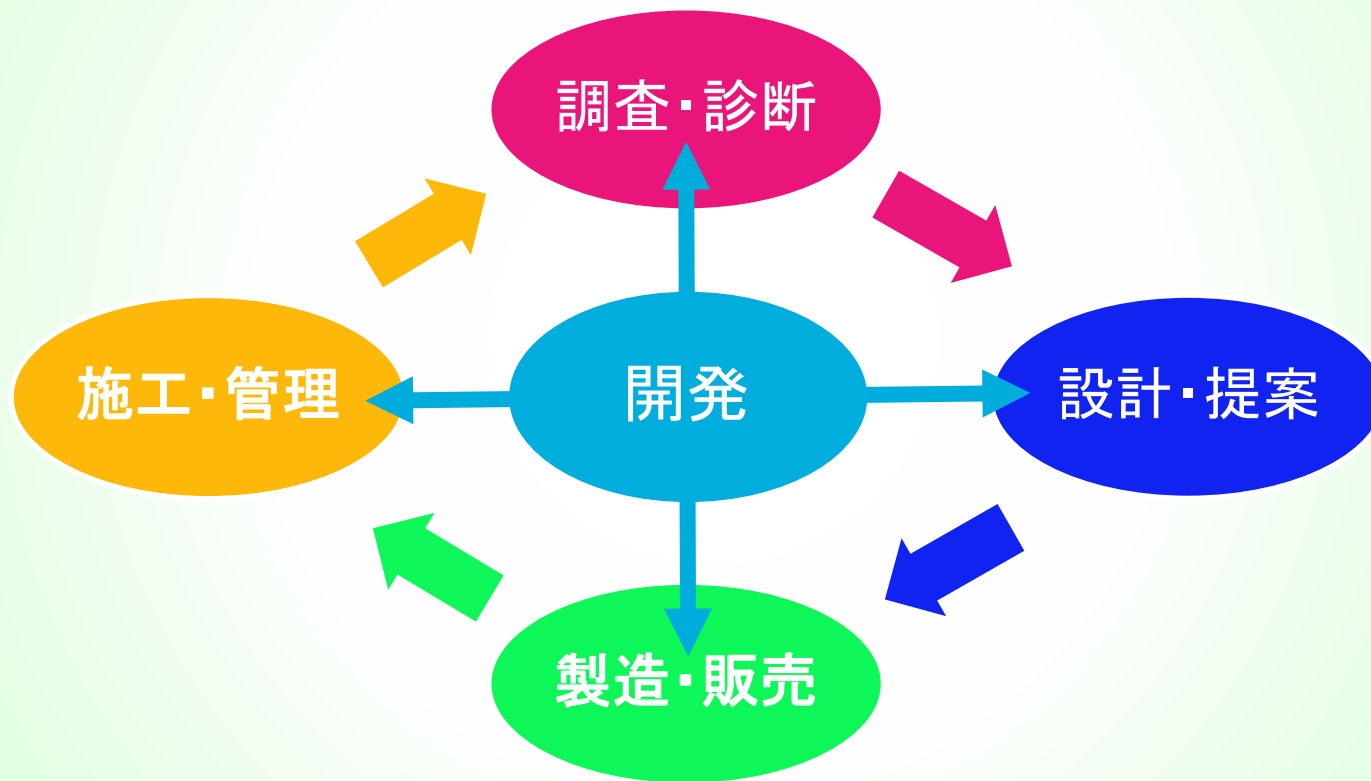
# 研究開発の強み

- ◆ ニチレキ社員の約1割(約40名)が研究開発部門に所属し、年間約10億円の資金を投入
- ◆ 舗装における性能評価試験機類を配備、道路の長寿命化、大規模更新などの社会インフラのメンテナンス時代に対応した環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進



(※)上記の研究開発費には、ソフト関連開発費用等を含む

# ビジネスモデルにおける強み



# 気候変動への対応

ニチレキグループでは、気候変動による事業への影響を重要な経営課題の一つと捉え、気候変動対策への取り組みを積極的に実施。

## ■ 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に賛同

### 目標

\*「統合レポート2023」において、TCFD提言に基づく開示を行っています。

■ 2030年度までにScope 1+2の温室効果ガス排出量を2013年度から50%削減

■ 2050年までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量ネットゼロ

### 施策

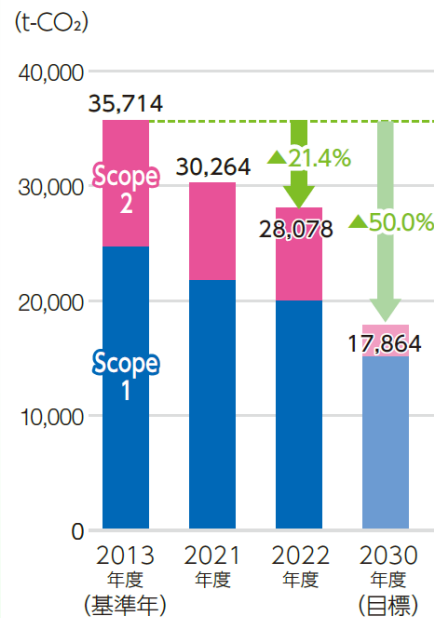


■ 製造方法の改革、グリーン電力の購入、太陽光パネルの設置促進等

■ 長寿命化・中温化舗装用改質アスファルト等の環境配慮型製品の販売拡大

■ 低炭素型の常温舗装材料及び施工技術の開発促進

## <CO<sub>2</sub>排出量の削減目標>

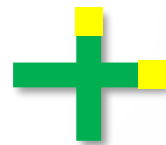


# ニチレキの「足すテナビリティ」

ニチレキグループは環境に配慮した製品・工法で、  
ステークホルダーの皆様のCO<sub>2</sub>排出量削減ニーズにお応えします。

アスファルト乳剤

改質アスファルト



橋梁床版防水

景観舗装

etc...



リサイクル



中温化



低炭素



長寿命化



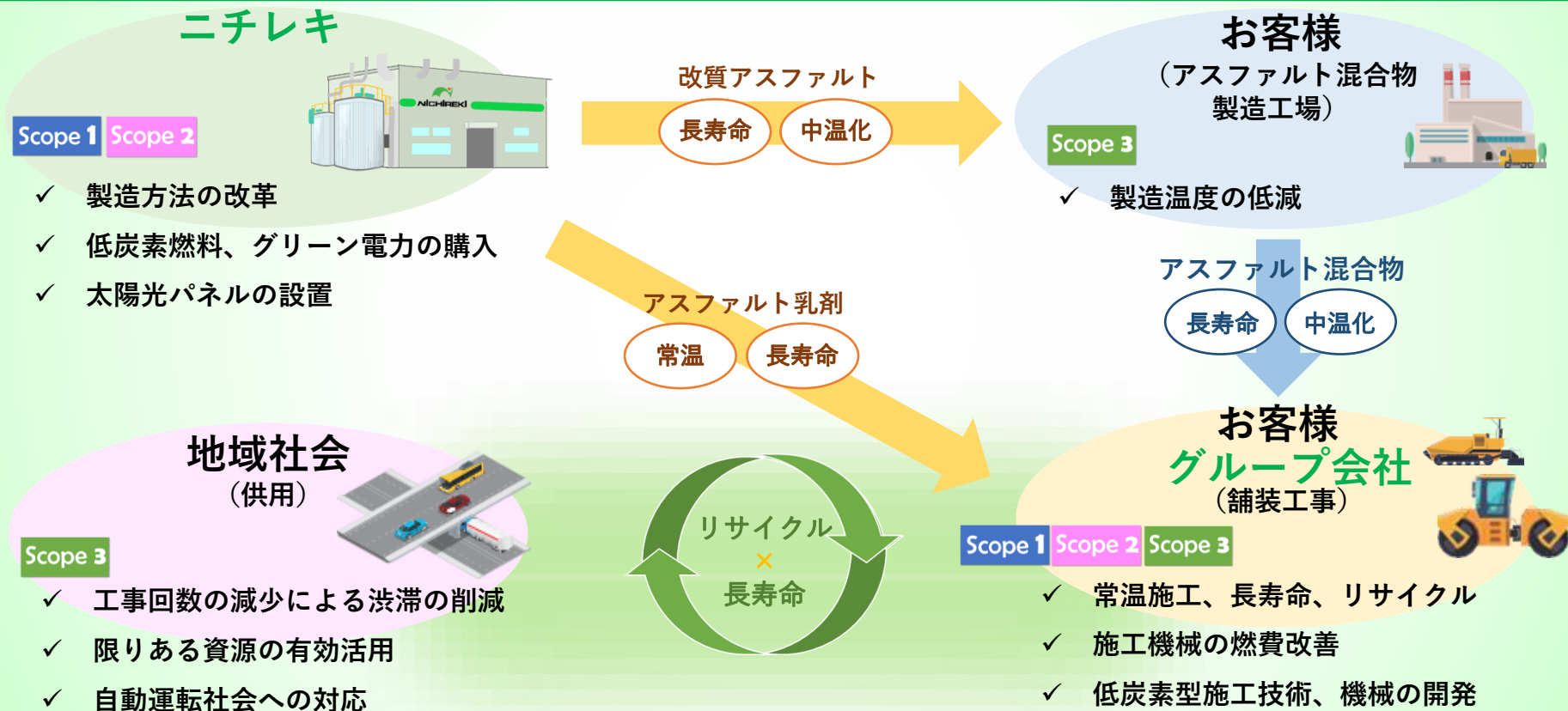
常温



安全安心

長寿命、リサイクルなどのさらなる性能・機能を「プラス」する  
すなわち『 **足す**テナビリティ<sup>®</sup> 』により、持続可能な道づくりに貢献します。

# ニチレキ製品・工法のCO<sub>2</sub>削減イメージ例



# スーパーコンテナファルト



アスファルト混合物製造時のCO<sub>2</sub>排出量  
約**13%**減

- ◆ 極めて高い塑性変形抵抗性を有し、**港湾や空港等**に適用可能な重荷重用特殊改質アスファルト
- ◆ 従来のニチレキ製品であるコンテナファルトSに比べ、混合物の製造温度を185℃から155℃に、**30℃低減**



足可テコビリティヤ®



舗装の**長寿命化**に寄与し、補修頻度を低くできることから  
工事作業および交通渋滞等によるCO<sub>2</sub>発生量の削減にも貢献



# スーパーシナヤカファルト



アスファルト混合物製造時のCO<sub>2</sub>排出量  
約**22%**減

- ◆ 手で曲げられるほどの柔軟性と、交通荷重に耐えうる強靱性を兼備した特殊改質アスファルト
- ◆ 従来のニチレキ製品であるシナヤカファルトに比べ、混合物の製造温度を180℃から130℃に、**50℃低減**



足すテコビリティヤ®



舗装の**長寿命化**に寄与し、工事回数が約2分の1に削減できることから  
工事作業および交通渋滞等によるCO<sub>2</sub>発生量の削減にも貢献

# スーパーコンテナファルト + スーパーシナヤカファルト



足可テコビリテヤ<sup>®</sup>



長寿命 + 中温化により、CO<sub>2</sub>排出量

約**48%**減

- ◆長寿命なアスファルト混合物である、スーパーコンテナファルトとスーパーシナヤカファルトを**組み合わせ**て舗装することにより、これまでにない**長寿命**舗装を実現
- ◆これにより、50年間の舗装のライフサイクルにおいて、CO<sub>2</sub>発生量を約48%削減

国土交通省

「R4新4号国道古河地区舗装工事」に採用

試験施工が行われ、適切な施工管理のもと良好な出来形を確保



# スタビセメントRC工法



既設舗装の再生利用により、CO<sub>2</sub>排出量  
約**22%**減

- ◆ 破損が進行した既設舗装を現位置で再利用し、新たな舗装を構築することにより、現場から排出する舗装廃材を約**80%**削減



足音テクノロジー®



長寿命化



工事期間の短縮やそれに伴う交通渋滞の軽減等により、さらなるCO<sub>2</sub>発生量の削減にも貢献

※「打換え工法」と比較  
(一般的な地方道レベル、設計CBR=4、大型交通量N5)

# スーパーシナヤカファルト + スタビセメントRC工法

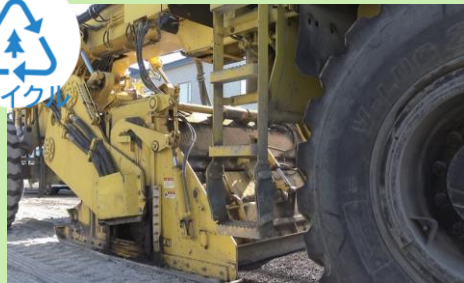


長寿命+リサイクルにより、CO<sub>2</sub>排出量

約**49%**減

- ◆ スタビセメントRC工法で構築した基盤の上に、スーパーシナヤカファルトを舗装することにより、これまでにない舗装の**長寿命化**を実現
- ◆ これにより、50年間の舗装のライフサイクルにおいて、CO<sub>2</sub>発生量を約49%削減

足可テゴビリテッ®



# 高耐久型橋梁床版防水工法

足可テコビリティヤ®



長寿命により、50年のライフサイクルでCO<sub>2</sub>排出量

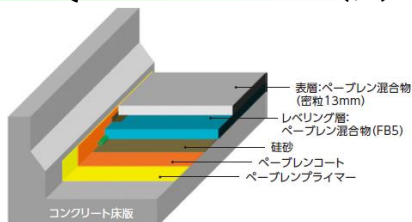
約**50~75%**減

- ◆ 橋梁は人や交通、経済をつなぐ重要なライフラインであり、長持ちさせる必要があるため、舗装を支えるコンクリート床版に水が染み込むのを防ぐ、高耐久な床版防水が求められている
- ◆ ニチレキは、現場に合わせて多彩なメニューから適切な高耐久型橋梁防水工法を提案

CO<sub>2</sub> 75%削減

舗装系防水工法

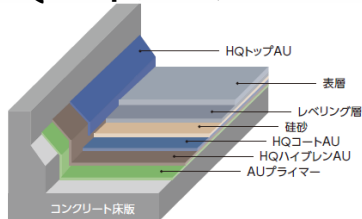
HQペーブレン工法



CO<sub>2</sub> 75%削減

高性能型橋梁床版防水工法

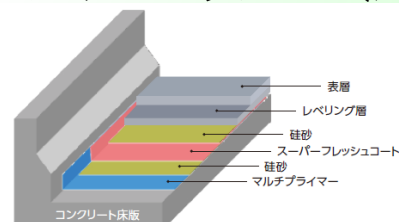
HQハイブレンAU工法



CO<sub>2</sub> 50%削減

高浸透型複合防水工法

マルチフレッシュ工法



# アスウッド舗装



通常の加熱舗装と比べCO<sub>2</sub>排出量

約**34%**減

- ◆ 常温施工によるウッドチップ舗装
- ◆ 透水性やクッション性に優れ、  
周囲の自然に溶け込む風合いで**景観**にも配慮



足コトコビリティヤ®



間伐材等を燃やさずに**利用**することにより、CO<sub>2</sub>を大気中に戻さず固定化



例えば、厚さ4cmで1,000m<sup>2</sup>をアスウッド舗装で施工した場合  
固定化できるCO<sub>2</sub>の量は、**杉の木約1,300本が年間に吸収する量**に相当

# 沿道環境への配慮



足可テコビリテヤ® 製品・工法を使用した沿道環境の改善により  
ステークホルダーの皆様に安全・安心をお届けします

## スーパーロメンパッチ

騒音・振動低減



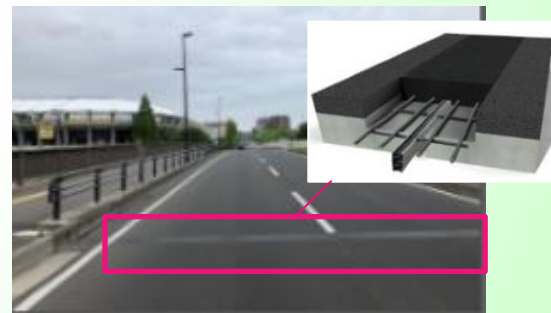
## ケミファルトMX

交通安全  
騒音低減



## シームレスジョイント

騒音・振動低減



## Ⅱ. 2024年3月期 第2四半期決算概要



## 当社グループを取り巻く事業環境

### ◆公共投資は底堅く推移

防災・減災、国土強靱化対策などが継続

### ◆原材料価格の高止まり

人件費上昇による物価高や円安傾向が依然として続く

今後も原油価格や為替相場の動向等に注視を要する状況

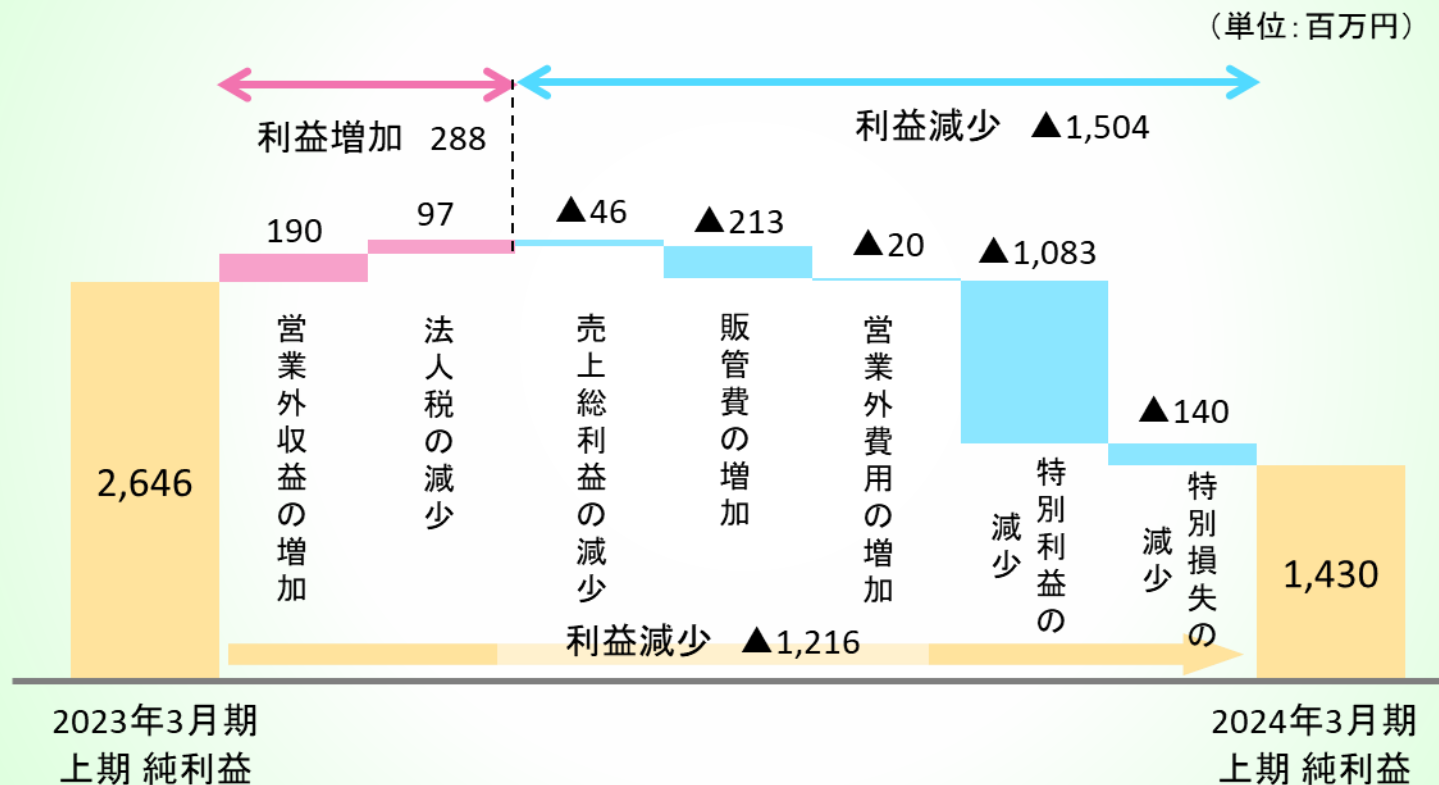
# 決算ハイライト II (連結経営成績)



(単位:百万円)

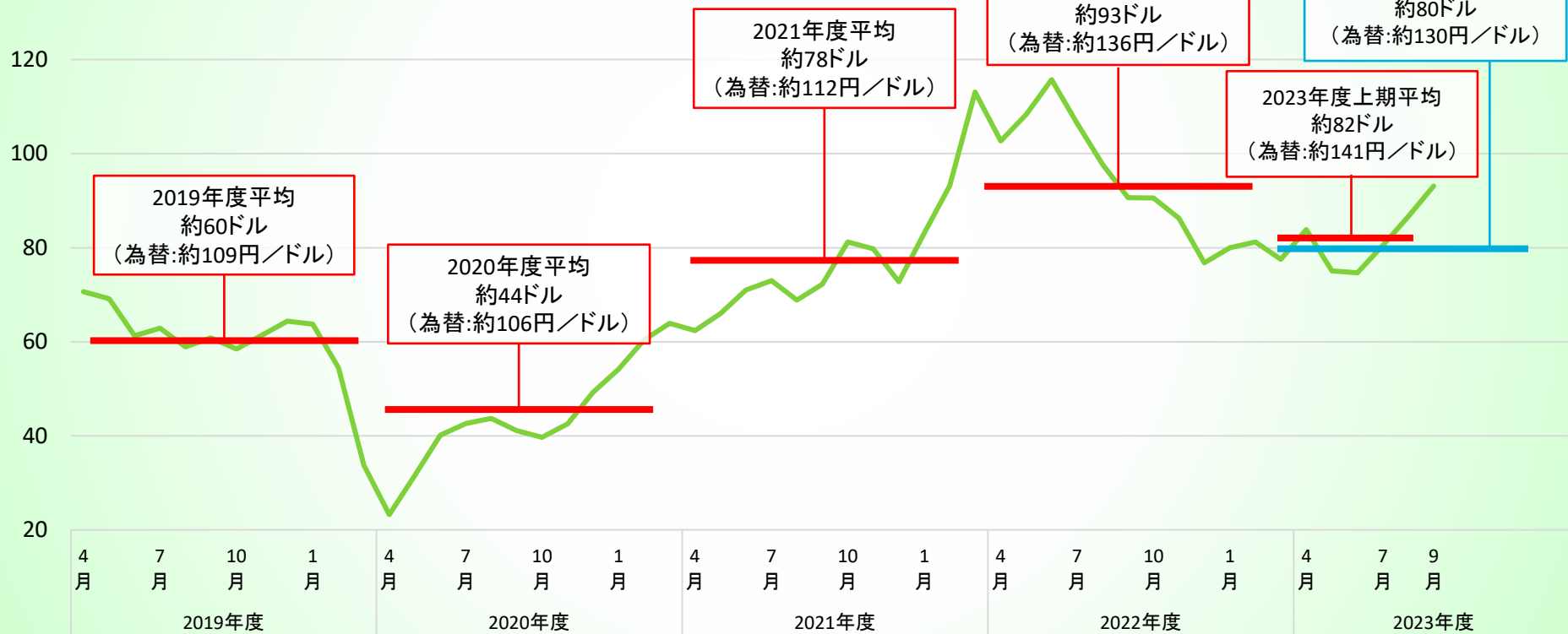
	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	対前期増減率
売上高	33,677	32,285	▲4.1% ↓
売上総利益	7,170	7,123	▲0.7% ↓
販売費及び一般管理費	4,992	5,205	4.3% ↑
営業利益	2,178	1,918	▲11.9% ↓
経常利益	2,441	2,351	▲3.7% ↓
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,646	1,430	▲46.0% ↓

# 純利益の増減要因分析

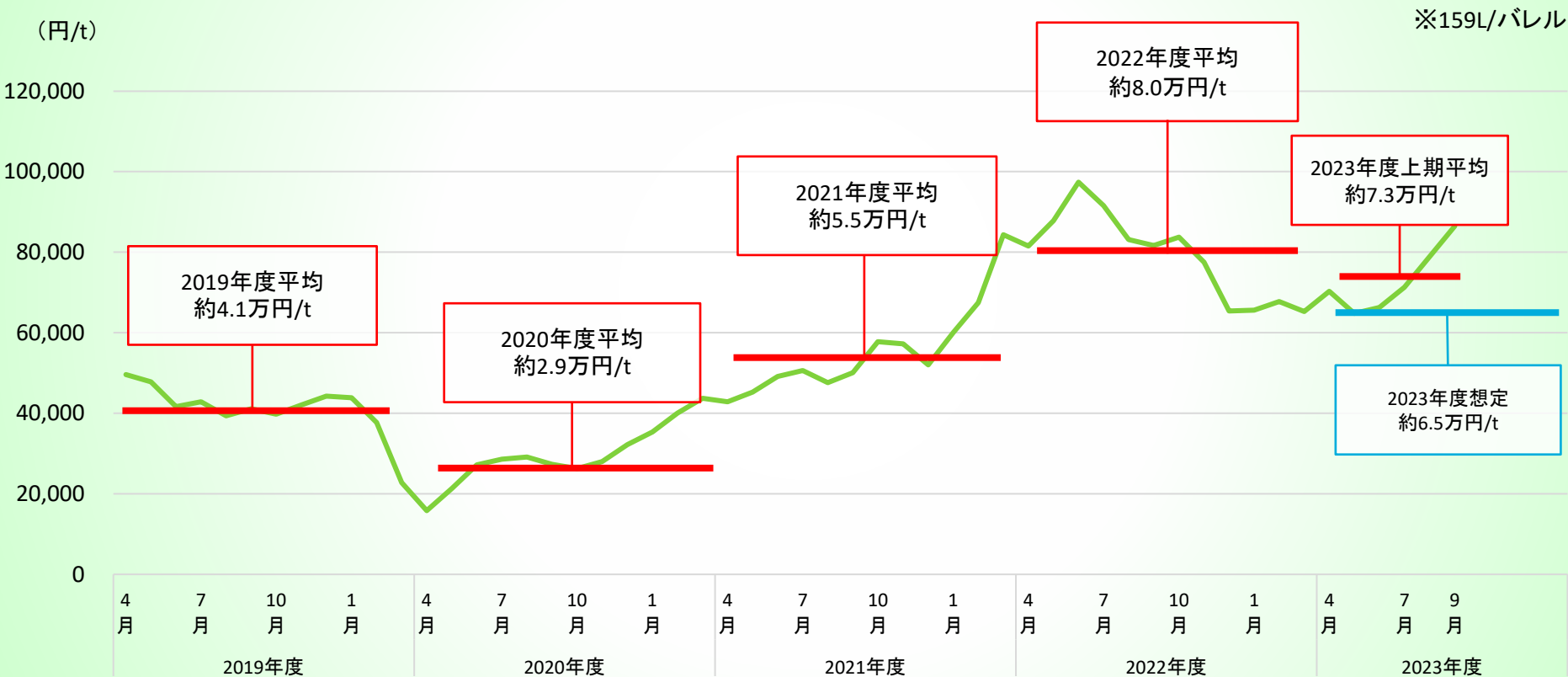


# 参考:ドバイ原油価格(ドル/バレル)

(ドル/バレル)



# 参考:ドバイ原油価格(円/t)



## アスファルト応用加工製品事業

- ◆高値圏での推移が続く原材料価格への対応
- ◆「長寿命化・高性能化」や「環境負荷低減」を図る高付加価値製品の設計・受注活動の更なる強化

## 道路舗装事業

- ◆防災・減災、国土強靱化対策に係る工法提案からの受注活動
- ◆工事の着実な執行

# 決算ハイライト IV (セグメント別業績)

(単位:百万円)

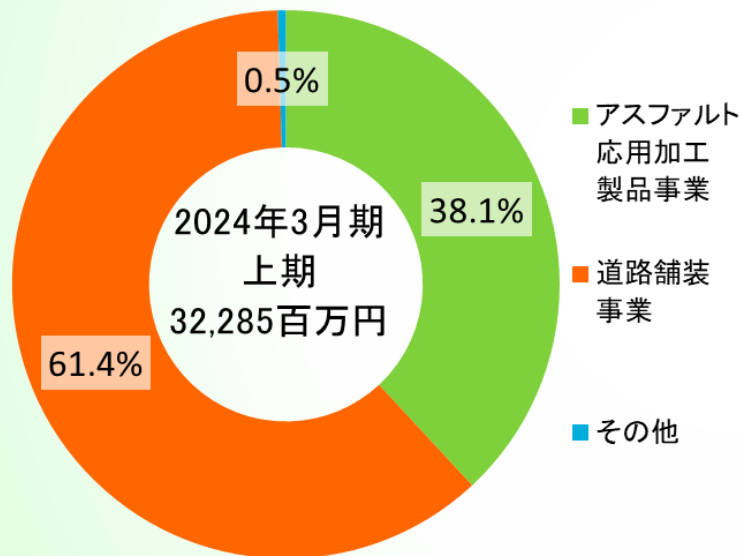
	アスファルト応用加工製品事業			道路舗装事業		
	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	対前期 増減率	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	対前期 増減率
セグメント売上高	12,760	12,296	▲3.6% ↓	20,763	19,834	▲4.5% ↓
セグメント利益	2,785	2,387	▲14.3% ↓	972	1,265	30.2% ↑
セグメント利益率	21.8%	19.4%	▲2.4pt ↓	4.7%	6.4%	1.7pt ↑

※アスファルト応用加工製品事業のセグメント売上高は、外部顧客への売上高

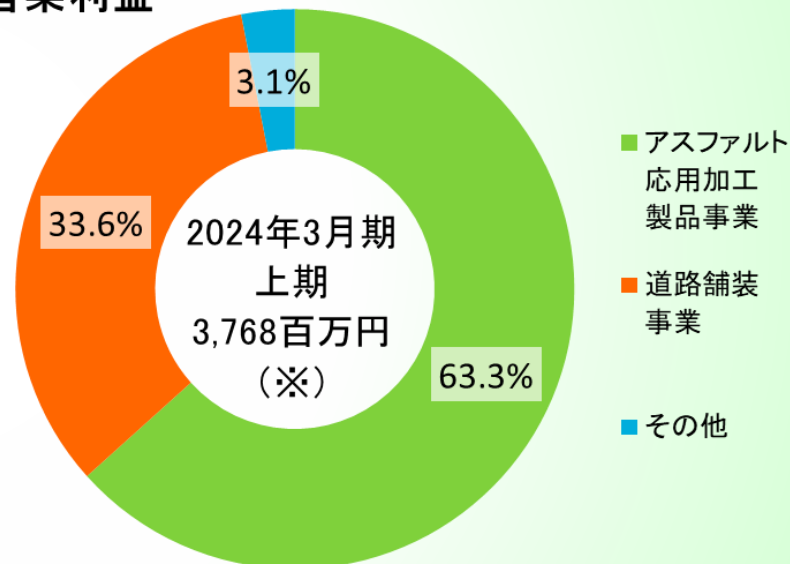
※セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額

# セグメント別業績比率

## 売上高



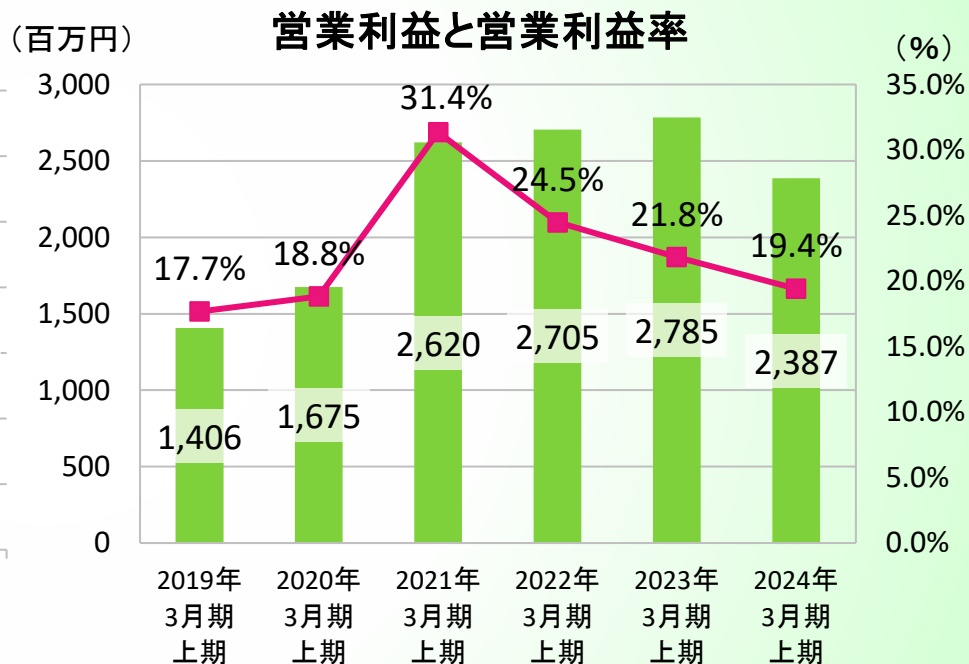
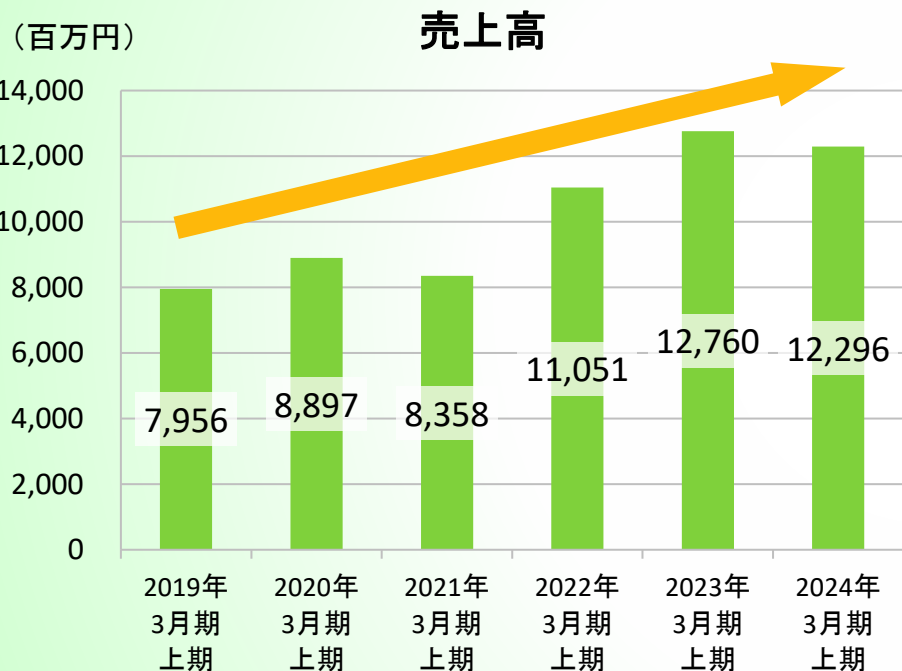
## 営業利益



※：セグメント間取引消去および全社費用の調整額  
1,850百万円を控除する前の金額



# セグメント別業績推移(アスファルト応用加工製品事業) 【上期累計】

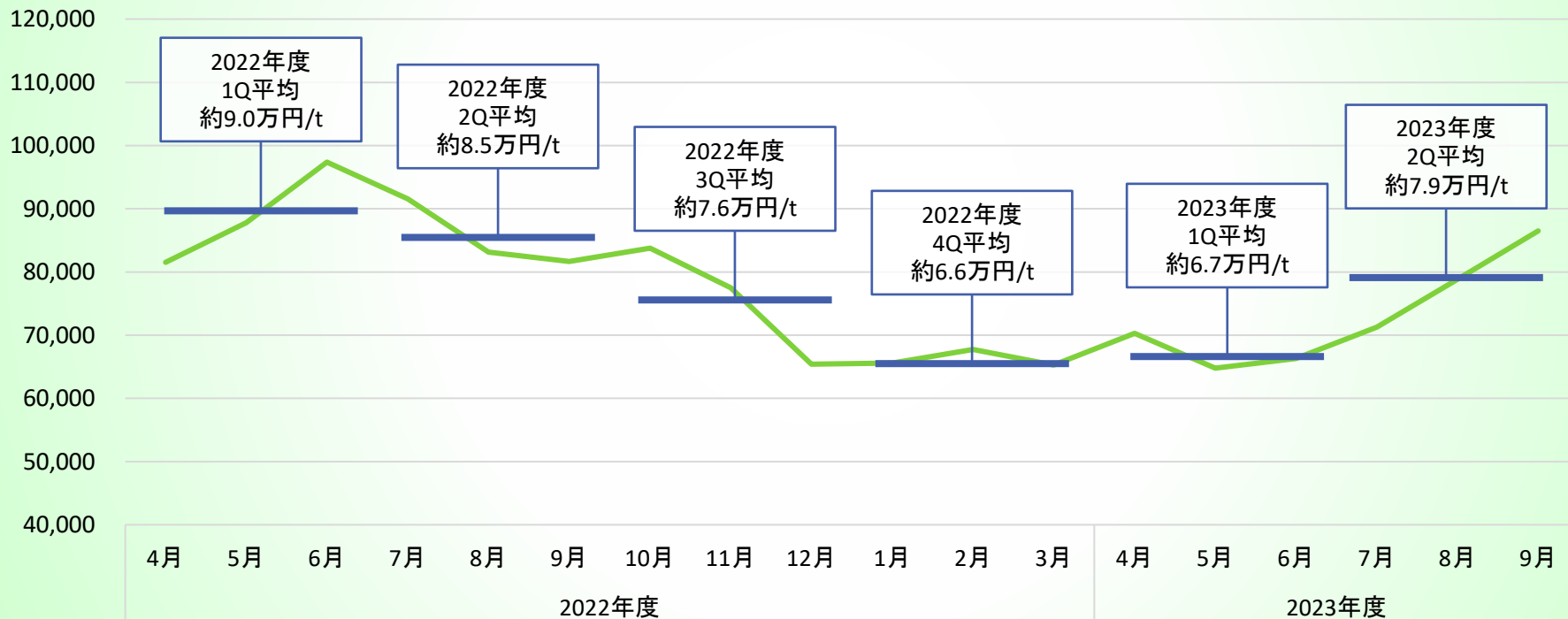


※セグメント売上高は、外部顧客への売上高のみ。セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額。

# 参考:ドバイ原油価格(円/t)

(円/t)

※159L/バレル

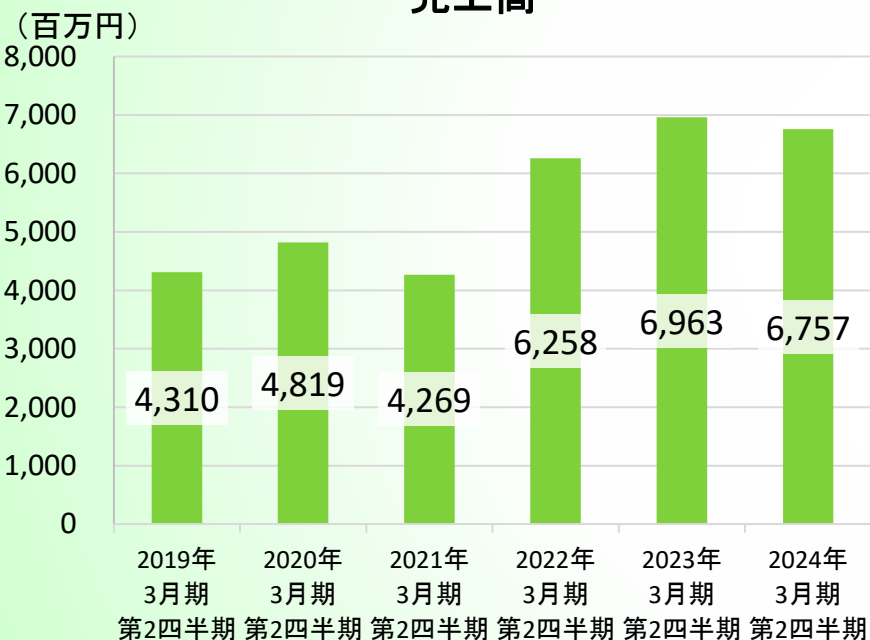


# セグメント別業績推移(アスファルト応用加工製品事業)

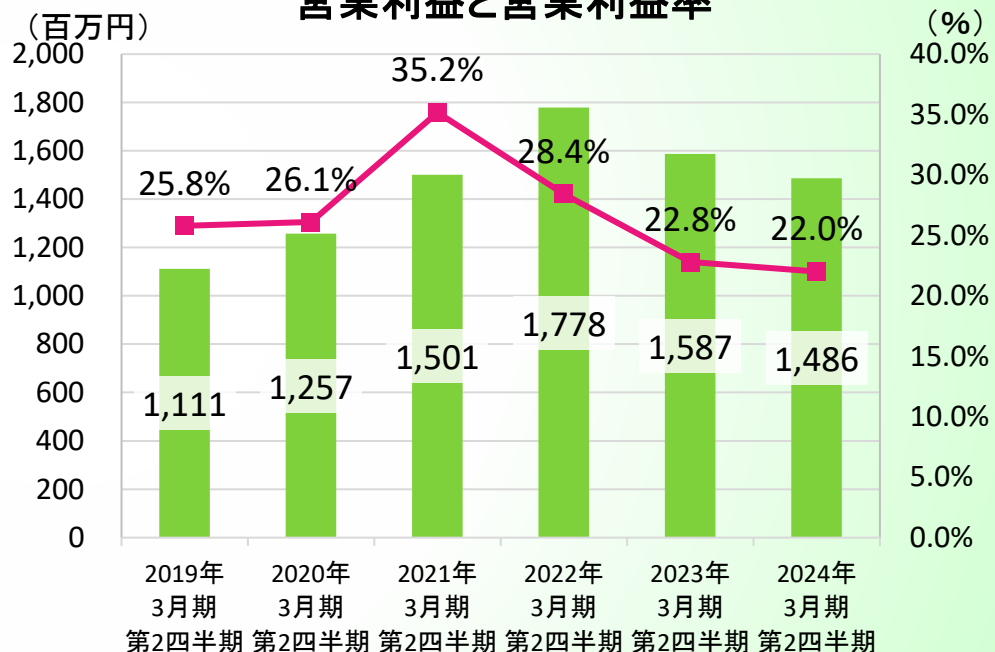
## 【第2四半期単独】



### 売上高



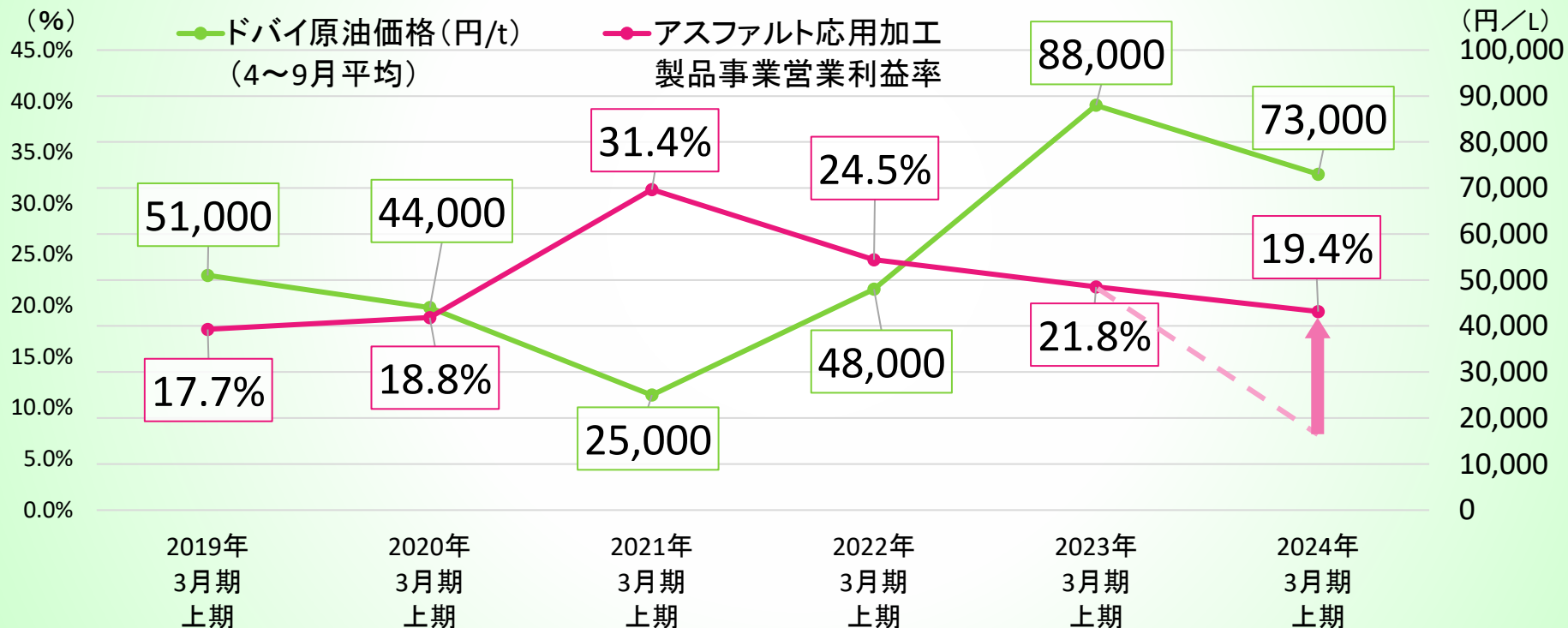
### 営業利益と営業利益率



※セグメント売上高は、外部顧客への売上高のみ。セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額。

# 営業利益率とドバイ原油価格(平均)の推移

## ◆為替の影響を勘案



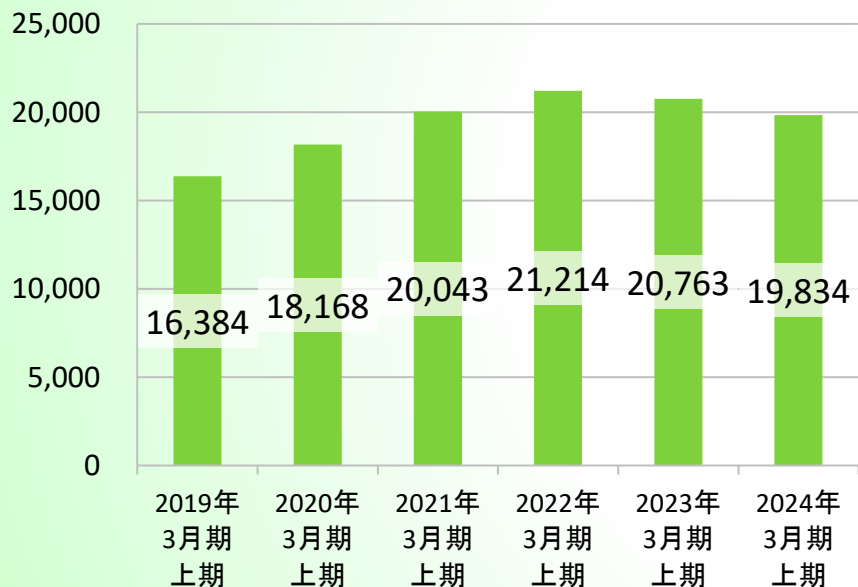
# セグメント別業績推移(道路舗装事業)

【上期累計】



## 売上高

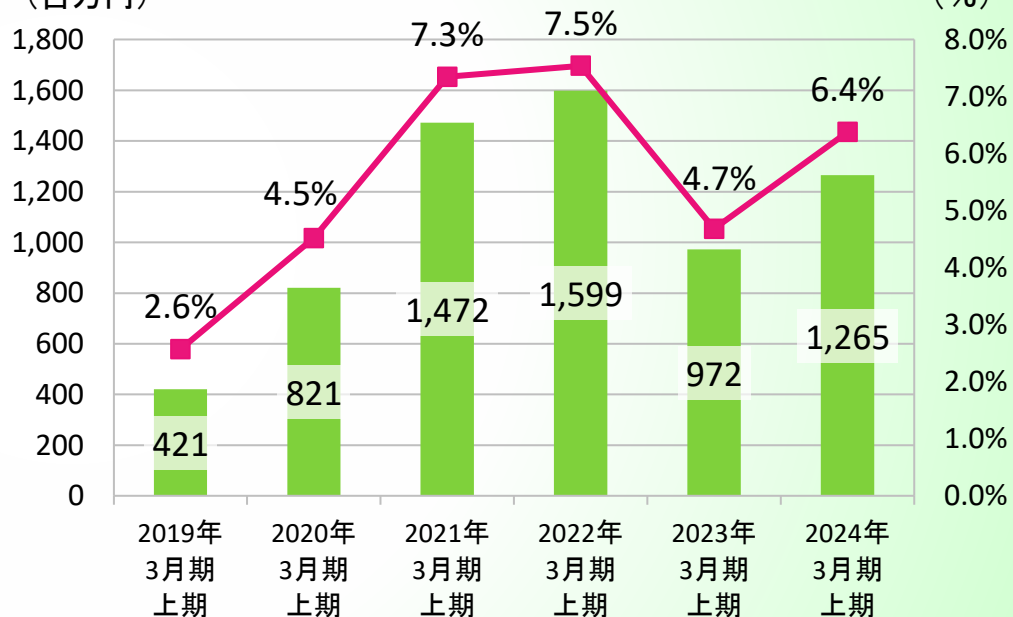
(百万円)



## 営業利益と営業利益率

(百万円)

(%)



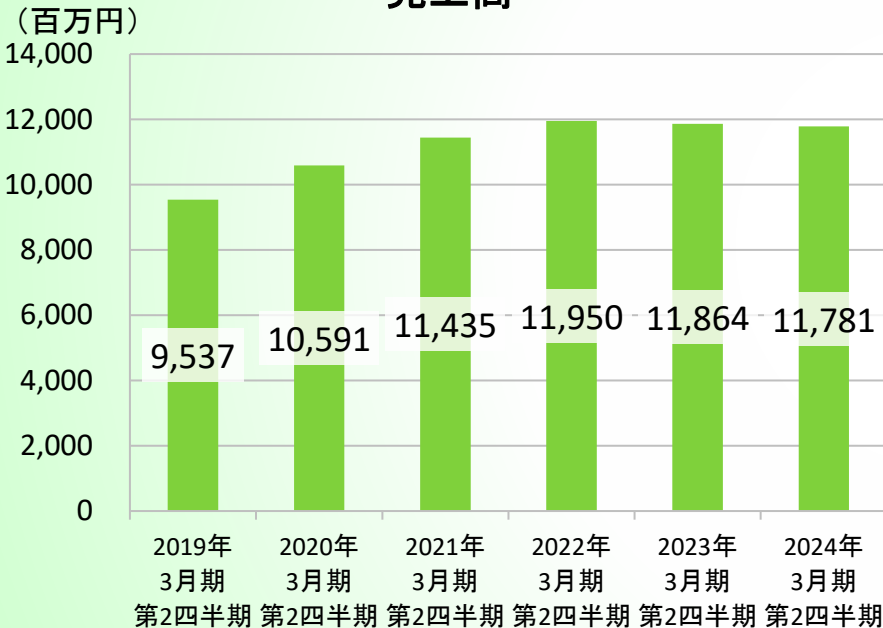
※セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額。

# セグメント別業績推移(道路舗装事業)

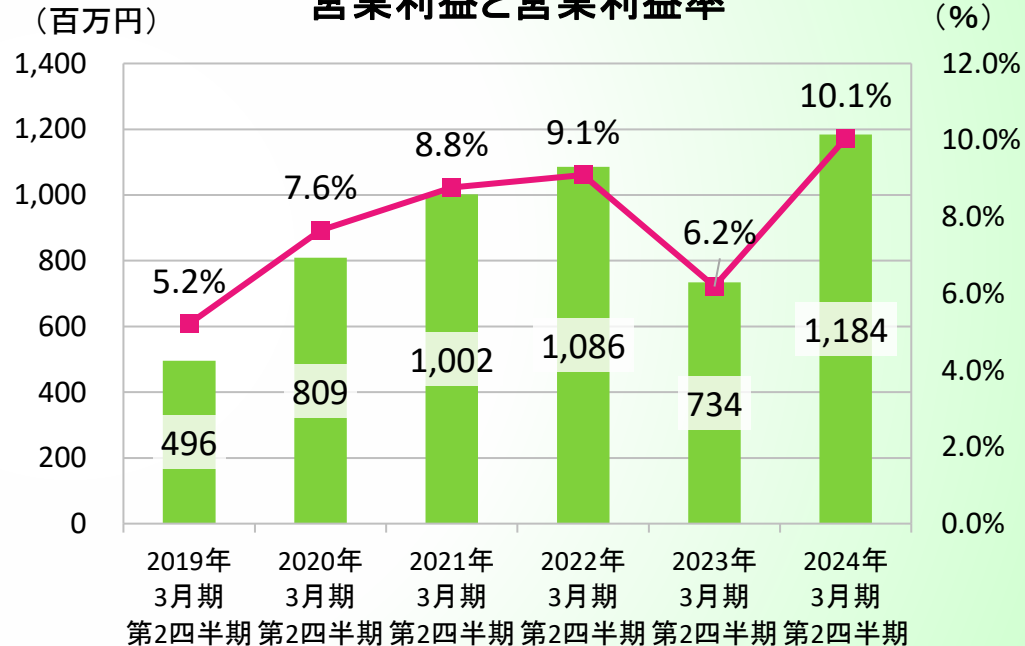
## 【第2四半期単独】



### 売上高



### 営業利益と営業利益率



※セグメント利益は、セグメント間取引消去および全社費用の調整額を控除する前の金額。

# 貸借対照表 (2023年9月30日)



※( )内は2023年3月期末からの増減

(単位:百万円)

資産の部 88,643 (▲2,830)	流動資産 47,795 (▲7,071)	流動負債 15,784 (▲1,865)	負債の部 17,702 (▲1,301)
	固定資産 40,847 (+4,240)	固定負債 1,918 (+564)	
		純資産 70,940 (▲1,529)	

# トピックス①



**4月** 東北大学大学院に共同開発部門を開設  
「GLOCAL-EYEZ」が国交省カタログに登録  
ニチレキ大阪営業所、近畿ニチレキ工事  
南大阪支店、ラインファルト工業本社開設

**5月** ラジオNIKKEI番組「企業トップが語る！  
威風堂々」ゲスト出演

**7月** 「東北ジャーナル」に対談記事掲載  
ニチレキ那須営業所、  
日瀝道路那須営業所開設  
「日本経済新聞」広告掲載①

**8月** 「日本経済新聞」広告掲載②



# トピックス②



9月 個人投資家向けIR説明会  
統合レポート2023(日本語版)を発行  
「GLOCAL-EYEZ」性能確認試験合格

10月 「日刊工業新聞」記事掲載  
第27回 世界道路会議への出展  
伊藤忠エネクス株式会社との資本業務提携  
第72回 日経広告賞「大賞」受賞  
東北大学院IMCとの実証実験  
統合レポート2023(英語版)を発行

11月 第35回 日本道路会議 論文賞受賞  
インフラDXコンペ 審査員特別賞受賞  
ハイウェイテクノフェア2023への出展

# 東北大学大学院における共同研究部門 開設



- ◆ 2023年4月、東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター(IMC)と共同して、「インフラマネジメント“足すテナビリティ”共同研究部門」を開設。



# 山形県における実証実験

◆2023年10月

「インフラマネジメント“足すテナビリティ”共同研究部門」が、山形県上山市で地域住民参加型の舗装補修工事実証実験を行った。

既存の「スーパーサーフトリート工法」と、生活道路向けに試作した新工法の2種の表面処理工法で施工。

大がかりな施工機械を必要とせず、かつ常温で施工できるため地域住民や市職員の方も簡単に補修を行えた。今後耐久性を確認し、試作品の改良へつなげる。



# 「GLOCAL-EYEZ」が性能確認試験に合格

◆2023年9月

株式会社スマートシティ技術研究所と共同開発したスマートフォンによる道路点検DXシステム「**GLOCAL-EYEZ**」が、一般財団法人土木研究センター実施の「2023年度路面性状自動測定装置（車両搭載機器型）の性能確認試験」に合格。（2023年度試験項目：ひび割れ、わだち掘れ、平坦性）

①アプリ起動



②スマホ設置



③計測スタート・ストップ



④データアップロード

クラウドサーバで  
AI自動解析

	ひび割れ診断区分Ⅰ（損傷レベル小）
	ひび割れ診断区分Ⅱ（損傷レベル中）
	ひび割れ診断区分Ⅲ（損傷レベル大）
	ポットホール発生箇所
	段差発生箇所

⑤パソコンから解析結果を即日確認可能



ひび割れ

わだち掘れ

IRI



# 新聞記事掲載

◆2023年10月3日

日刊工業新聞「成長につなぐ一事例17ゴールズ & 169ターゲット」に、ニチレキのSDGsに関する取り組みが掲載。

スーパーシナヤカファルト、スタビセメントRC工法等、舗装材料によるCO2排出量削減への貢献が事例として紹介された。



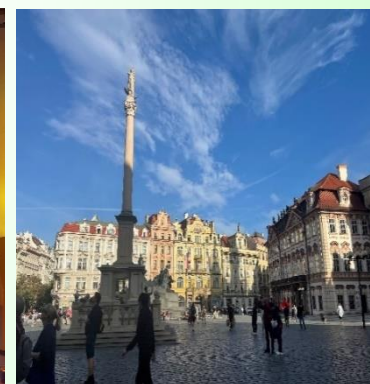
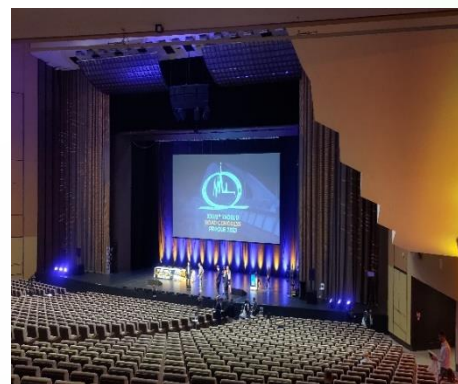
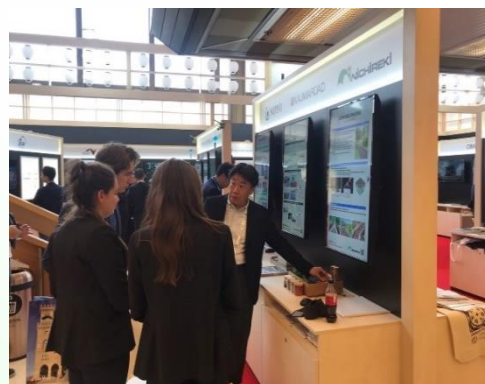
# 第 27 回世界道路会議(プラハ大会)に出展

◆ 2023年10月2日～6日

チェコ共和国プラハ市において開催された世界道路協会 (PIARC) 主催の第 27 回世界道路会議(プラハ大会)に出展。

◆ 技術展示会では日本道路協会による日本パビリオン内にてニチレキ製品・工法を紹介。

特に、アスウッド舗装をはじめとするニチレキの環境配慮型製品・工法が、世界各国の参加者から注目を集めた。



# 伊藤忠エネクス株式会社との資本業務提携

物流及び研究開発・新技術の活用等に関し、両社の関係を一層発展・強化し、長期的なパートナーシップを構築。

## 資本提携

ニチレキ株式会社

約10億円相当の  
ニチレキ自己株式を割当



約10億円分の伊藤忠エネクス株式を  
市場買付け等により取得(予定)

伊藤忠エネクス株式会社

## 業務提携

- ① ネットワークの活用による物流の合理化
  - 輸送網の共有および輸送の共同化
  - 最適な輸送体制の構築
- ② 研究開発と新技術の活用
  - 次世代燃料等の利用による環境負荷低減型の生産・物流・施工体制の整備
  - 環境負荷低減型舗装用材料の新規開発および素材調達

# 第72回 日経広告賞「大賞」受賞

- ◆2023年7月25日、8月3日 「日本経済新聞 朝刊」に2週連続のシリーズ広告を掲載。
- ◆ニチレキのインフラを守ることで社会に貢献する姿勢と、文学作品や聖書とを絡めたコピー、またインパクトのある写真を用いた力強い表現が高く評価され、全応募作品約8,000点のうち最上位である「大賞」を受賞。





# 日本道路会議論文賞受賞

◆2023年11月1～2日

(公財)日本道路協会主催の第35回日本道路会議において、当社技術に関する論文2編が表彰を受ける。

①舗装部門 一般論文 口頭発表 優秀賞

「舗装の長寿命化および低炭素化に寄与するポリマー改質アスファルトの開発」

・・・スーパーシナヤカファルト

②舗装部門 一般論文 口頭発表 優秀賞

「車両内設置カメラを利用した路面わだち掘れ評価技術の開発」

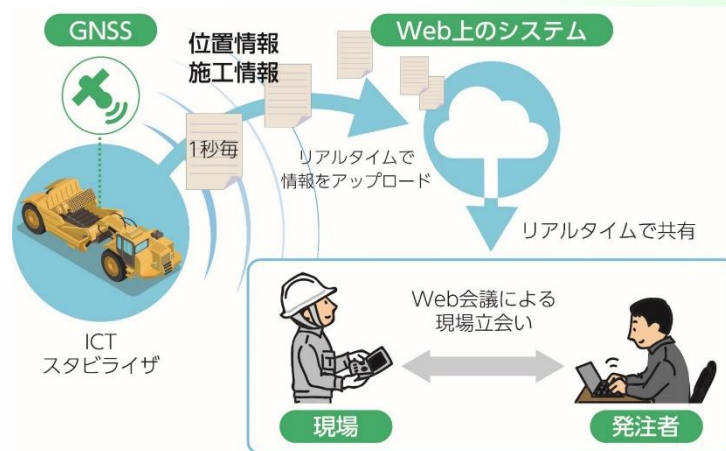
・・・GLOCAL-EYEZ



# インフラDXコンペ 審査員特別賞受賞

◆2023年11月1日

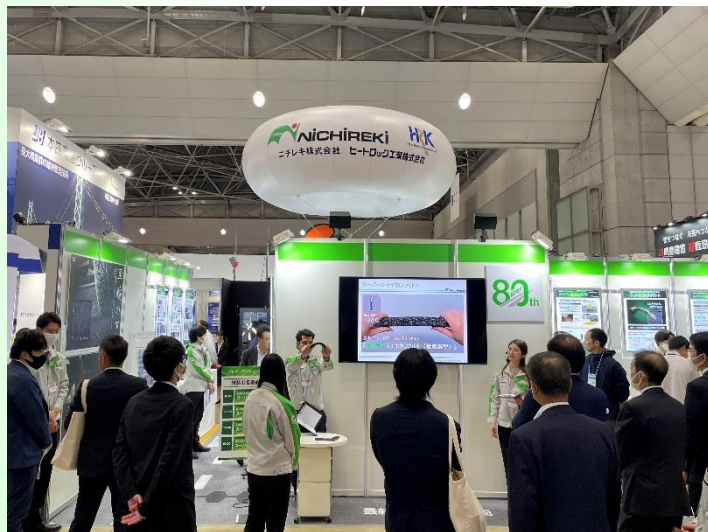
建設技術展2023近畿 内で開催されたインフラDXコンペにおいて、ICT技術を活用した  
路上路盤再生工について発表し、審査員特別賞を受賞。



# ハイウェイテクノフェア2023への出展

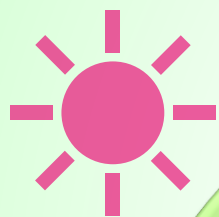
◆2023年11月9～10日

(公財)高速道路調査会主催の展示会へ、ヒートロック工業と共同で出展。  
高速道路の長寿命化に関する舗装技術を紹介。



## Ⅲ. 2024年3月期 業績予想

# 当社グループを取り巻く外部環境

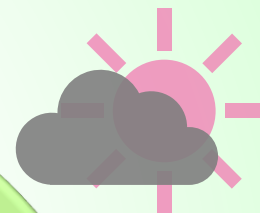


## 政策

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の施行

## 経済

- ・景気は引き続き改善基調をたどるも依然として不確実性の高い状況
- ・円安・物価高の進行

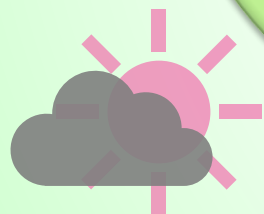
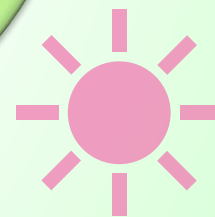


- ・環境・SDGsに対する意識の高まり
- ・建設・物流業界における「2024年問題」

## 社会

## 技術

- ・ICT、IoT及びAI技術の発達
- ・自動運転技術の進展



# 通期業績予想(連結)

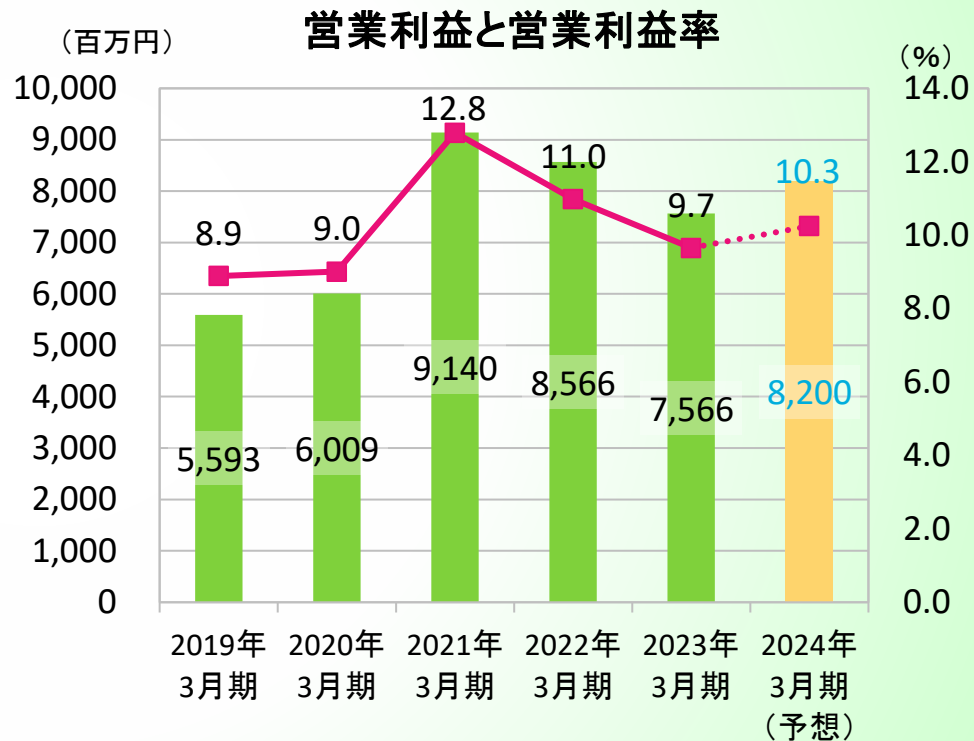
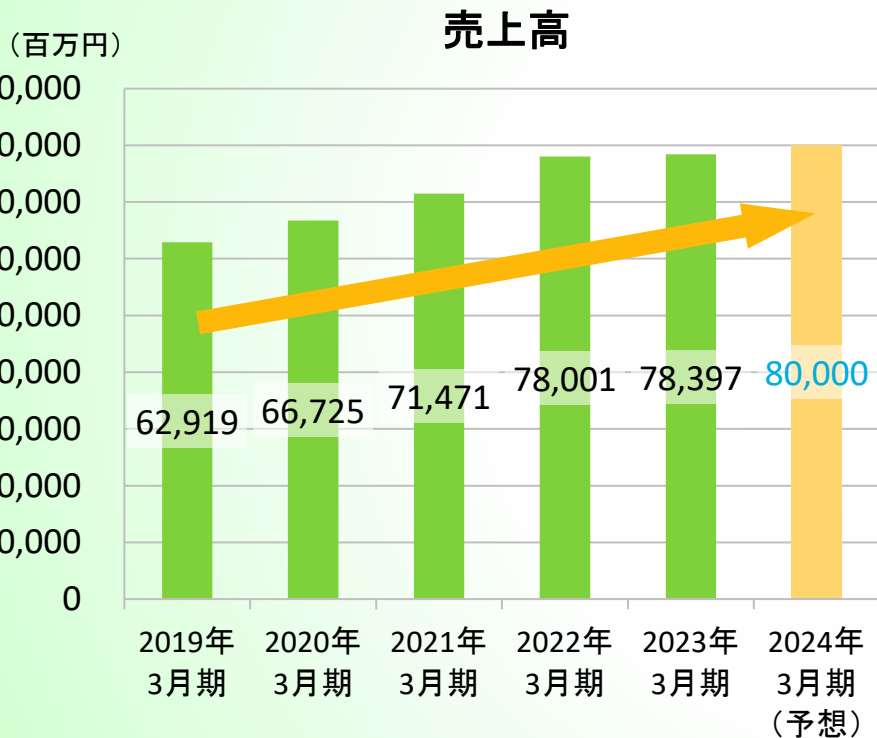


(単位:百万円)

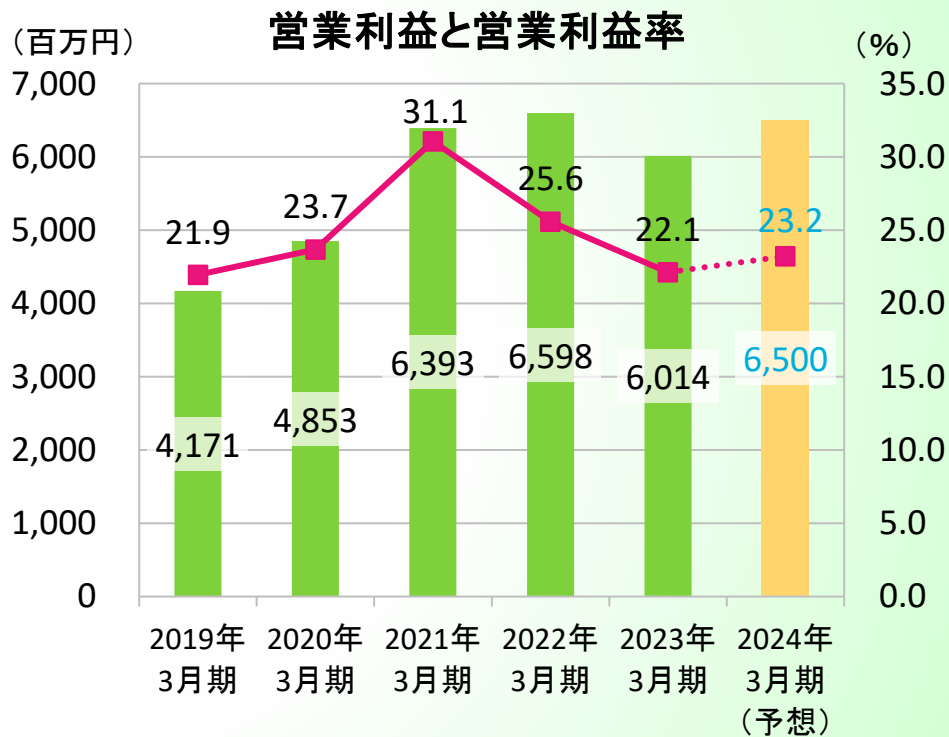
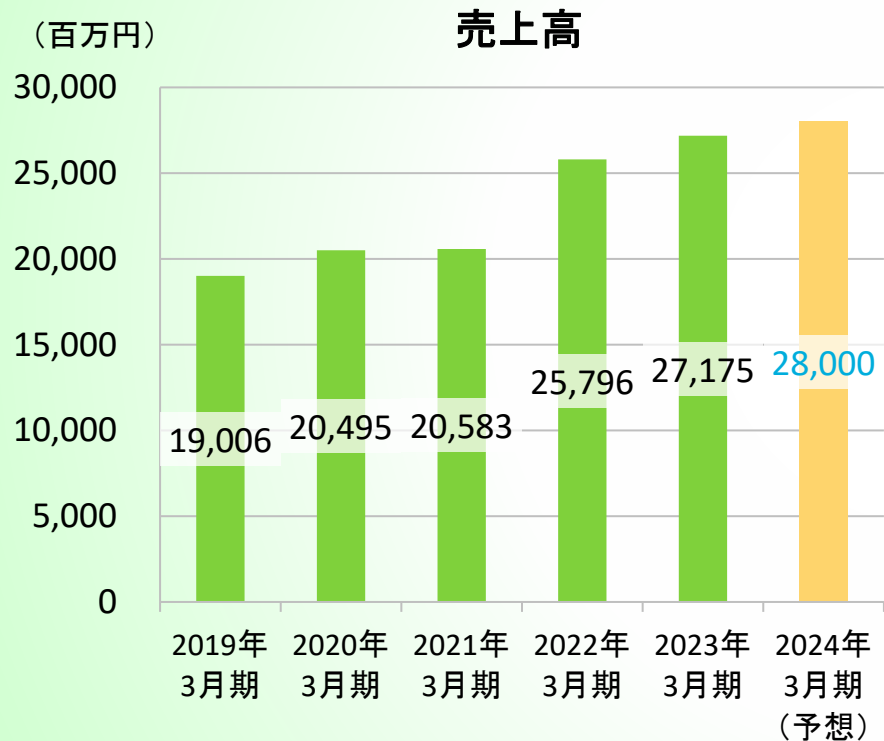
	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想(※)	対前期増減率
売上高	78,397	80,000	2.0%
営業利益	7,566	8,200	8.4%
経常利益	8,104	8,400	3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,284	5,500	▲12.5%

※原油価格80ドル/バレル、為替130円/ドルで想定

# 通期業績予想(推移)

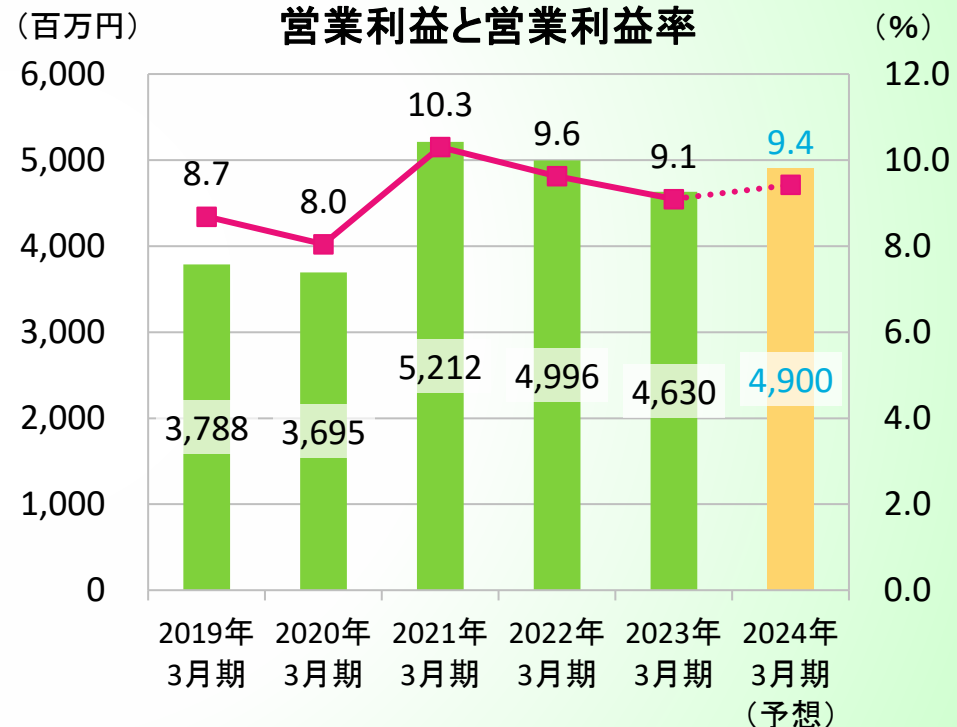
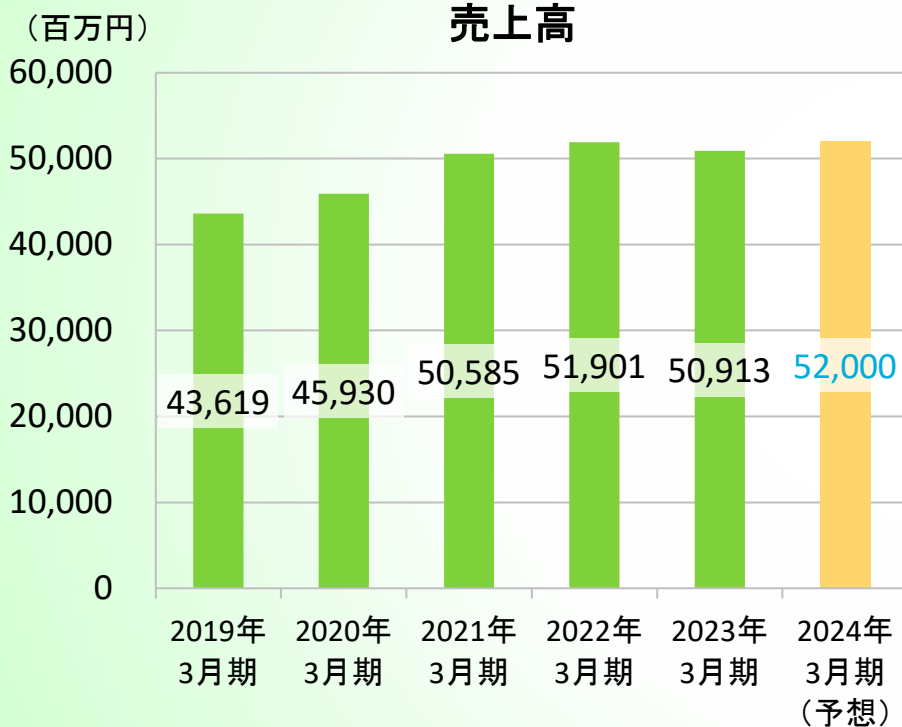


# セグメント別業績予想(アスファルト応用加工製品事業)





# セグメント別業績予想(道路舗装事業)



# 自己株式の取得状況

項目	取得枠 (2023年5月10日公表)	進捗 (2023年10月31日現在)	進捗率
株式総数	1,700,000株 (上限)	1,673,100株	98%
株式取得価額総額	3,000,000,000円 (上限) (30億円)	2,999,944,756円 (約30億円)	100%
取得期間	2023年3月1日～ 2024年2月29日	2023年3月1日～ 2023年10月31日	
株式の種類	当社普通株式		
取得方法	東京証券取引所における市場買付		

# 持株会社体制への移行の検討開始

2023年10月30日開催の取締役会において、持株会社体制へ移行するための検討を開始することを決議。

## 1. 持株会社体制への移行の目的

- 事業環境の大規模かつ速い速度での変化に対応し、最適な機能分担に基づき当社グループの持続的成長を目指す。
- 持株会社: グループ経営機能に特化しグループ戦略の策定および経営資源の配分の最適化を図る。
- 事業会社: 各事業に専念し、環境の変化に対応したスピード感のある事業展開を行う。

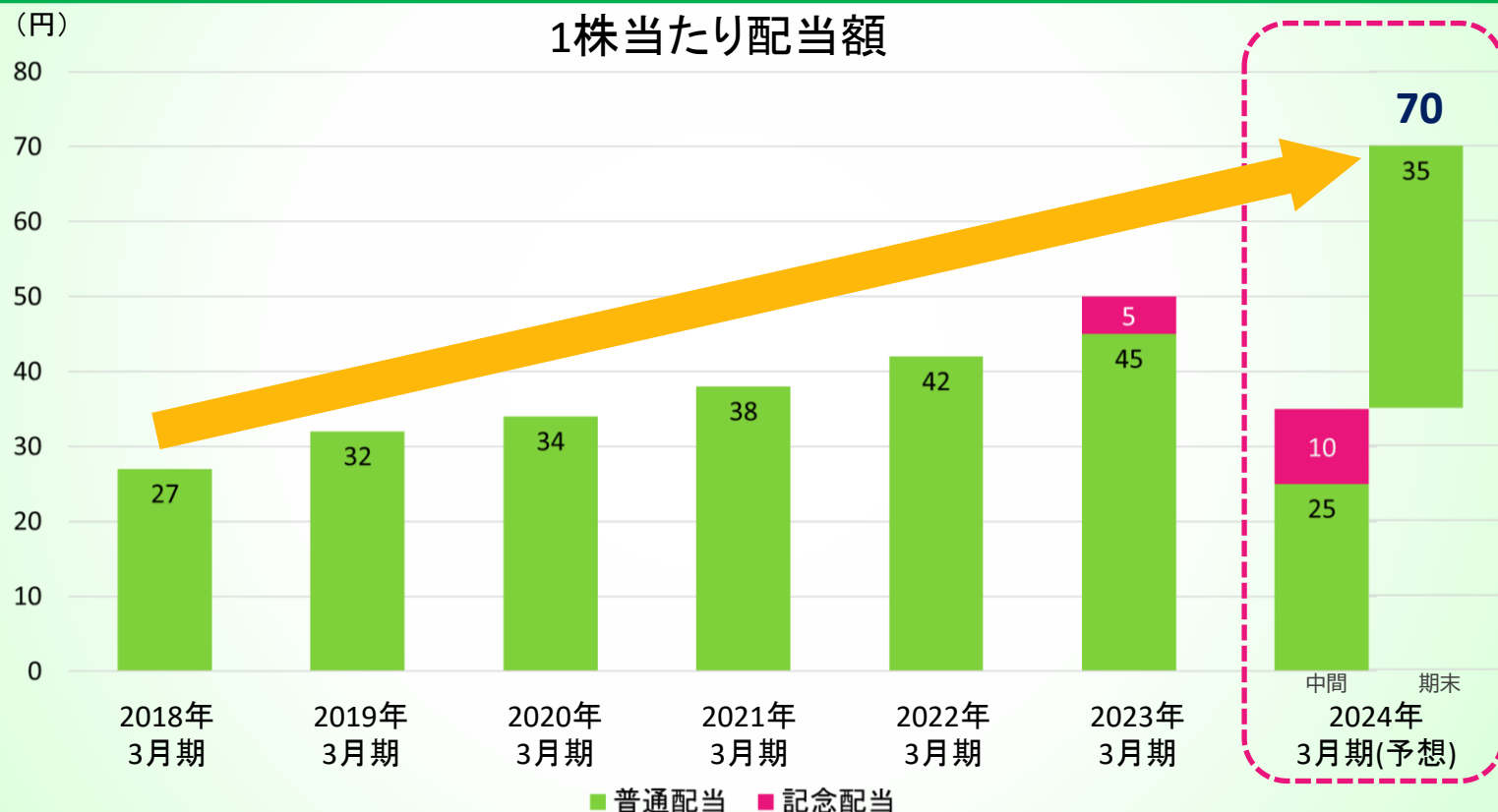
## 2. 持株会社体制への移行時期と方法

- 2024年10月を目途に実行することを基本的な方針とする。
- 当社株主に経済的な不利益を生じさせることのないよう、当社株主の保有することとなる持株会社の株式につき、引き続き上場が維持される方法で実施する予定。

# 2024年3月期剰余金の配当予想

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
2023年3月期	—	50円 (普通配当45円) (記念配当 5円)	50円 (普通配当45円) (記念配当 5円)
2024年3月期 (予想)	35円 (普通配当25円) (記念配当10円)	35円 (普通配当35円)	70円 (普通配当60円) (記念配当10円)

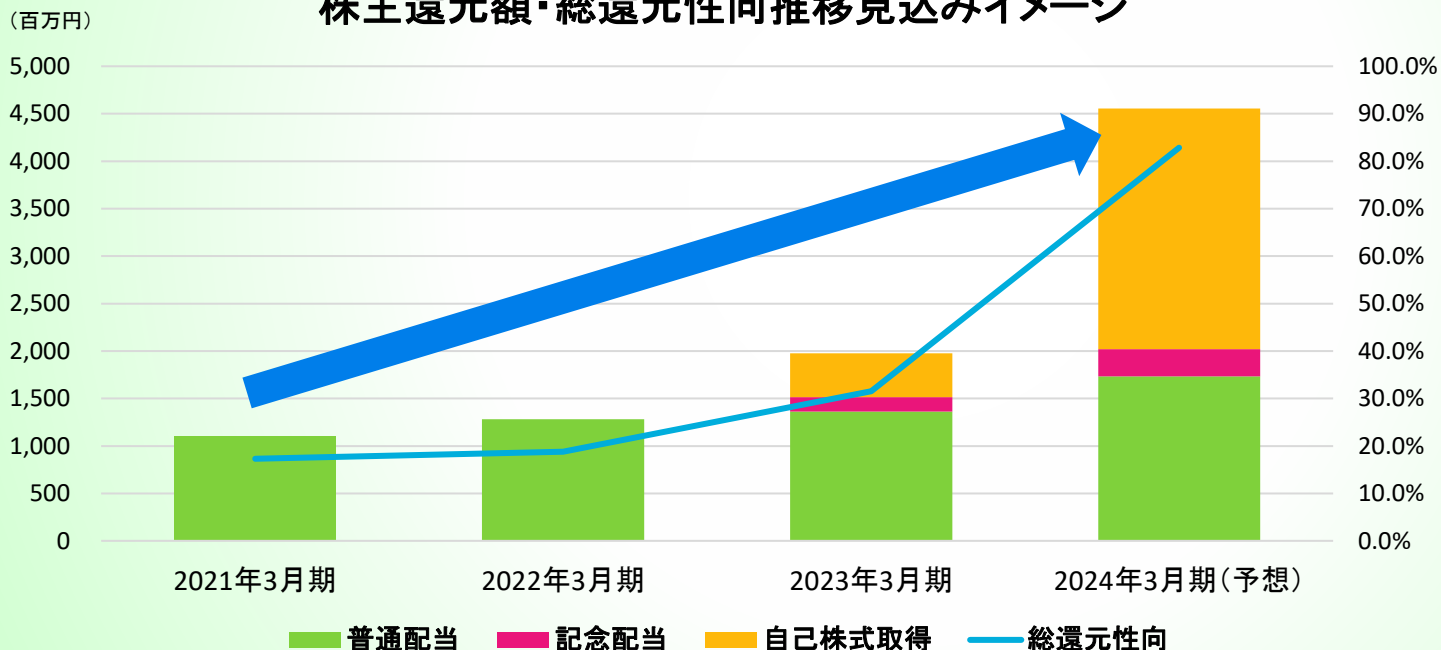
# 剰余金の配当の推移



# 株主還元: 総還元額の推移イメージ

◆ 将来に向けた投資をするとともに着実に総還元性向を向上させ、株主還元を拡充。

## 株主還元額・総還元性向推移見込みイメージ

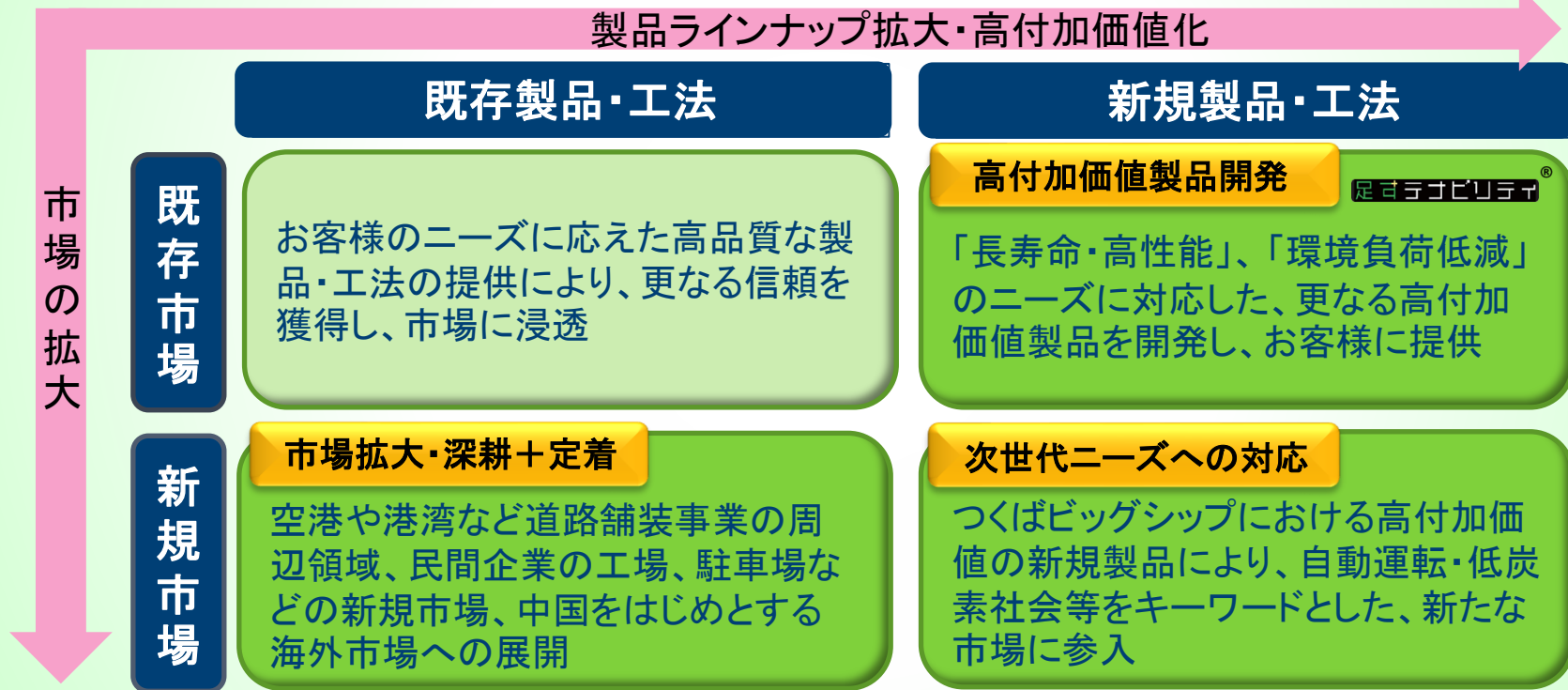


当社の通期業績予想、配当予想に基づいて作成した推移見込みイメージ。  
自己株式の取得に関しては、対象期間中に、総額上限(30億円)まで取得するとの前提に基づき作成。

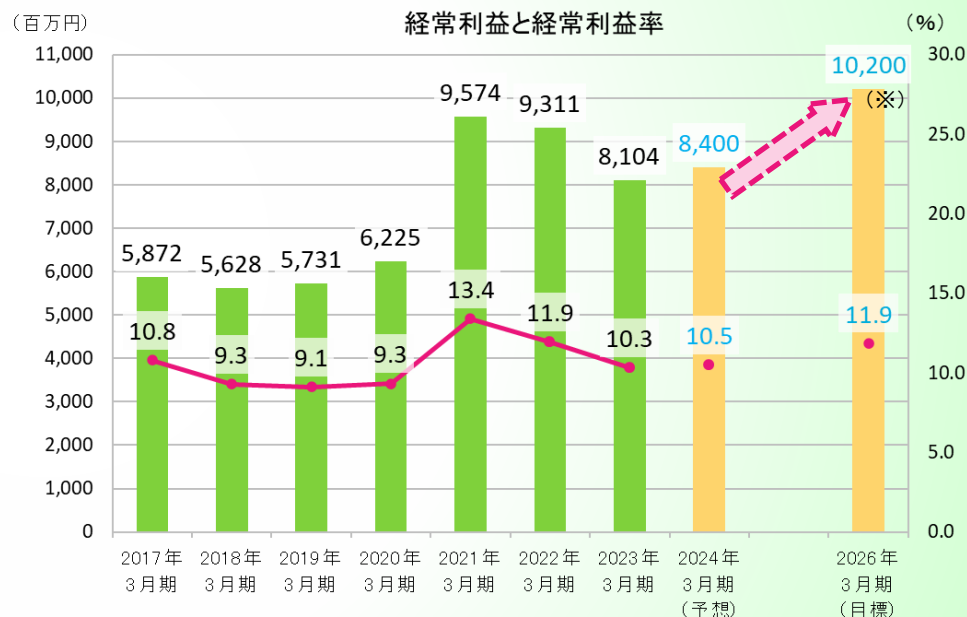
# ニチレキグループの成長戦略

研究開発力を武器に、市場の拡大および高付加価値製品・工法の開発により、更なる成長を目指す。

製品ラインナップ拡大・高付加価値化



# 経営成績目標



※2026年3月期目標は、2022年5月10日適時開示の修正後の目標値。  
原油価格110ドル/バレル、為替130円/ドルで想定



# 「つくばビッグシップ」プロジェクトについて

◆ 着工を延期していた「つくばビッグシップ」について、今年度の着工を目指す。



生産能力の向上

高付加価値製品の製造

首都圏の「工事センター」機能

環境に配慮した生産・物流の実現

物流管理の効率化

BCP(事業継続計画)機能の強化

# 財務方針－キャッシュアロケーション (2022年度～2025年度 4年間)



事業成長から創出されるキャッシュフローを活用し、次世代に向けた成長投資を行うとともにより手厚い株主還元を実施。

◆国土強靱化や環境負荷低減に寄与する高付加価値製品・工法の提供により、更なる営業利益の向上を目指す。

営業利益  
(350～370億円)

減価償却費



成長投資  
(300億円)

通常投資  
(80億円)

株主配当  
(70～80億円)

自己株式取得  
(170万株/30億円)

法人税等

## ◆つくばビッグシップへの投資

先進的な環境配慮型の生産物流基地の建設。

◆既存拠点への投資 ※キャッシュアウトは今中計期間中に発生見込み  
生産性・安全性の向上に向けた既存拠点のインフラ改善。

拠点施設・設備維持のための投資。  
(年間約20億円)

## ◆株主配当の拡充

- ✓ 利益還元の機会を充実させるため、中間配当制度を導入。
- ✓ 事業成長により更なる増配を目指す。

## ◆自己株式の取得

- ✓ 170万株/30億円(上限)の自己株式取得により、更なる総還元性向の向上を図る。

※現時点におけるキャッシュイン・アウトの見込み概算値

## ◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

## ◆ お問い合わせ先

ニチレキ株式会社 広報部 IR担当

TEL：03-3265-1513（8:30～17:30、土日・祝日を除く）

HP： <https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>